様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２２ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１３７７４

研究課題名（和文）19世紀初頭の東南アジア貿易の実態解明―輸入と消費に着目して―

研究課題名（英文）Empirical Study of Southeast Asia's Trade in the Early Nineteenth Century: Focus on Imports and Consumption

研究代表者
小林　篤史（Kobayashi, Atsushi）

京都大学・東南アジア地域研究研究所・助教

研究者番号：４０７５０４３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近年の東南アジア経済史で注目が集まっている近世から近代への転換期の貿易について、19世紀初頭の輸入と消費という新たな視角から分析することで、地域貿易システムの長期的な発展を明らかにした。
　第一に本研究は18世紀の東南アジアで築かれた多角的な貿易関係は19世紀初頭にも維持されていたことを解明した。第二に東南アジアとインドの貿易統計を駆使して、19世紀初頭の東南アジア貿易は増加傾向にあったことを示した。第三に、東南アジアにおいては、近世の代表的な輸入品であったインド綿織物が、近代以降も持続的に流通したことで、地域の貿易成長を支えていたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年の東南アジア経済史では、長期の19世紀を通した地域経済の自律的な発展を検証する研究が活性化している。しかし、重要な時期である19世紀初頭の東南アジア貿易の実証研究は資料不足により進んでいなかった。そこで本研究は、従来は注目が薄かった「輸入と消費」に焦点を当て、東南アジアとインドの貿易統計を駆使することで、実証研究の穴を埋めるとともに、近代の東南アジア貿易の発展の基礎の一部は、前近代の地域貿易システムから継承されたことを提示した。これにより、長期の19世紀の東南アジア貿易の発展という新たな論点を、歴史叙述と実証研究の両面から補強した。

研究成果の概要（英文）：This research analysed the noteworthy Southeast Asia's trade development during the early nineteenth century-the transitional period from the early modern to the modern periods-from the fresh point of view focusing on imports and consumption, and disclosed the successive growth of regional trading system during the long-nineteenth century.
First, this study found that the multilateral trade links established in eighteenth-century Southeast Asia were sustained in the early nineteenth century. Second, using Southeast Asia's and India's trade statistics, the present study suggested that Southeast Asia's trade increased during the early nineteenth century. Third, Indian cotton textiles, which had been one of the most significant imports for early modern Southeast Asia, continued to circulate in the region after the modern period, supporting the regional trade growth.

研究分野：アジア経済史

キーワード：近代東南アジア貿易　長期の19世紀

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、近代東南アジア経済に関して、新たな歴史像を提示する研究が発表されている。従来は近世の商業の時代と西洋植民地期に挟まれた、18 世紀から 19 世紀前半にかけての東南アジア経済は低迷していたと考えられていた。これに対し最新の研究は、18 世紀末から東南アジアの経済は貿易を中心に覚醒しはじめ、それを機に発達した商業ネットワークや貿易構造は、19 世紀後半以降の工業国向け一次産品輸出の成長にも影響を与えた可能性を提示した。この新たな研究潮流の意義は、これまで等閑に付されていた時代に貿易の拡大があったという史実に迫るだけでなく、18 世紀末から 20 世紀初頭にまたがる「長期の 19 世紀」という時代設定によって、近世から近代への東南アジア経済の変容が、断絶ではなく連続的かつ自律的に進んだという新たな認識を確立するという点にもある。しかしながら、この研究を進めるうえで無視することができない課題が存在する。それが、19 世紀第一四半期の東南アジア経済の実態解明である。

東南アジア史では、18 世紀末までを対象とする研究は現地王国の史料や西欧の東インド会社の経営資料を利用する一方で、19 世紀以降の研究は西洋植民地政府の公文書や統計を多用する。しかし、こうした歴史資料の転換期に当たる 19 世紀初頭は、オランダ東インド会社の崩壊、ナポレオン戦争による西欧や東南アジアの混乱に影響されて、利用可能な資料が乏しい。このため、19 世紀初頭を対象とした研究はその前後の時期に比べ遅れている。だが、長期の 19 世紀における東南アジア経済の発展を論じるためには、資料の欠乏を理由にその時期の実証研究の遅れを等閑視することはできない。19 世紀の初頭は東南アジア経済が近世から近代へ移行する入り口の時期に当たり、そこで起こった変化はその後の動向にも影響を与えた可能性があるためである。そこで本研究はこの資料不足の制約を乗り越え、19 世紀初頭の東南アジア貿易の実態を、輸入と消費に焦点を当てて解明する。

２．研究の目的

本研究の目的は、19 世紀初頭の東南アジア貿易の実態を、新たに利用可能となった貿易統計を駆使して明らかにすることであった。その際に、本研究は新たな分析枠組みとして、これまで注目が薄かった「輸入と消費」に着目した。

３．研究の方法

従来の研究では、19 世紀の東南アジア貿易の成長を分析する際に、輸出データが重用された。しかし、資料が乏しい 1800-25 年にかけては、そのデータも精度を欠いてしまう。他方、当時の東南アジア貿易の構造に注目すると、輸出とともに貿易を構成する輸入の重要性が看取される。18 世紀後半以降の東南アジアでは、米、胡椒、海産物といった現地産品の中国への輸出が拡大した。そして輸出品と交換に東南アジアの生産者に供給されたのが、インドから輸入される綿織物やアヘンであった。このインド、東南アジア、中国がつながる多角的な貿易構造からは、18 世紀末以降の東南アジア貿易の拡大は、現地産品の輸出と連動して、インドからの消費財の輸入も原動力となっていたことが分かる。この輸入の動向に着目することで、19 世紀初頭の貿易の実態をより正確に把握できるとともに、消費財の輸入に着目することで、東南アジア社会における消費行動の発達という近代経済に向けた重要な変化にも迫りうるのである。

４．研究成果

本研究では輸入に焦点を当てる新たな方法で、19 世紀の第一四半期における東南アジア貿易の構造、趨勢、成長メカニズムを数量的に明らかにし、東南アジア経済史における長期の

19 世紀論の進展を目指した。具体的には以下の 3 点が解明された。

第一に本研究が解明したのは、18 世紀に構築された東南アジアの多角的な貿易関係は、19 世紀初頭にもその重要性を継続していたということである。当時、東南アジア地域はインドからの綿織物の輸入と引き換えに、中国向けの現地産品を輸出しており、アジア域内交易に統合されていた。そして東南アジアでは貿易に伴う高い情報・交通コストに対応するため、リアウやシンガポールなど港湾都市が中継港として発達した。こうした多角的な貿易関係や貿易ハブとなる中継港といった特徴は 19 世紀を通した東南アジア貿易の成長の基盤となったのであった。

第二に、東南アジアとインドの貿易統計を駆使したことで、19 世紀初頭の東南アジア貿易は増加傾向にあったことが示された。東南アジアではインドから輸入される綿織物は、現地住民の服飾品として大きな需要があり、人々はインド綿布を購入するため中国向けに輸出される商品作物を積極的に栽培した。そこで本研究は、現地住民の生産活動にも刺激を与えた綿布を中心とする消費財の輸入に焦点を当て、その主な供給先であったインドの貿易統計を活用した。1800-25 年にかけてインドから東南アジアへの輸出額（東南アジアにとっては輸入）は増加しており、特に綿織物の輸出が大きく伸びていた。東南アジアにおける綿布輸入の増加は、現地住民の生産活動への刺激と輸出拡大にもつながったと推測される。

第三に、東南アジアではインド綿布の持続的な流通が、貿易成長を支えていたことが判明した。従来は 19 世紀前半にイギリス綿工業品が東南アジアに流入したことで、インド綿布は流通から排除されたと考えられていた。しかし、東南アジアの資料とインド貿易統計によれば、インド綿布は 19 世紀中葉まで東南アジアに流入し、イギリス品よりも質の良い商品として現地住民に好まれていた。こうして消費財の嗜好性という地域市場の状態が、東南アジアの多角的な貿易関係を支え、近代貿易の成長につながったのであった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Kobayashi Atsushi	４．巻 72
２．論文標題 International bimetallism and silver absorption in Singapore, 1840-73	５．発行年 2019年
３．雑誌名 The Economic History Review	６．最初と最後の頁 595～617
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1111/ehr.12662	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Atsushi Kobayashi
２．発表標題 Growing Exchange Market and Bullion Trade in Asia, c.1830-70
３．学会等名 World Economic History Congress XVIII（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Atsushi Kobayashi
２．発表標題 Changing Consumption and Trade Growth in Southeast Asia, c.1800-70
３．学会等名 World Economic History Congress XVIII（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Atsushi Kobayashi
２．発表標題 Origin of Singapore's Economic Prosperity, c.1800-1874
３．学会等名 Singapore 200（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Atsushi Kobayashi
２．発表標題 Development of Resource Exports and Food Supply in Southeast Asia－Historical experience in the nineteenth century－
３．学会等名 East Asian Association of the Environmental and Resource Economics 7th Congress（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計8件

１．著者名 小林篤史	４．発行年 2019年
２．出版社 慶応義塾大学東アジア研究所	５．総ページ数 119-150
３．書名 「シンガポールと東南アジア地域経済－１９世紀」古田和子編『都市から学ぶアジア経済史』	

１．著者名 Atsushi Kobayashi	４．発行年 2019年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 13-29
３．書名 'The origins of Singapore's economic prosperity, c.1800-74' in A. Webster and N. White eds, Singapore-Two Hundred Years of the Lion City	

１．著者名 三重野文晴・小林篤史	４．発行年 2020年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 第３章
３．書名 「経済発展」川中豪・川村晃一編『教養の東南アジア現代史』	

1．著者名 Kobayashi, Atsushi	4．発行年 2018年
2．出版社 Springer Nature	5．総ページ数 33-58
3．書名 The Growth of Intra-Southeast Asian Trade in the First Half of the Nineteenth Century: The Role of Middlemen in Singapore ’, In Modern Global Trade and the Asian Regional Economy, Monograph Series of the Socio-Economic History Society Japan	

1．著者名 Takeuchi, Yayoi, Kobayashi, Atsushi, and Diway, Bibian	4．発行年 2019年
2．出版社 Springer Nature	5．総ページ数 453-477
3．書名 Transitions in the Utilisation and Trade of Rattan in Sarawak: Past to Present, Local to Global ’, In Anthropogenic Tropical Forest	

1．著者名 Kobayashi, Atsushi, and Sugihara, Kaoru	4．発行年 2019年
2．出版社 Springer Nature	5．総ページ数 563-585
3．書名 Changing Patterns of Sarawak Exports, c.1870 to 2013. In Anthropogenic Tropical Forest	

1．著者名 Kobayashi, Atsushi	4．発行年 2019年
2．出版社 Springer Nature	5．総ページ数 95-113
3．書名 Growth of Regional Trade in Modern Southeast Asia: The Rise of Singapore, 1831-1913 ’. In Paths to the Emerging State in Asia and Africa	

１．著者名 富澤拓志、小林篤史、田島俊雄　編	４．発行年 2017年
２．出版社 大阪産業大学アジア共同体研究所	５．総ページ数 174頁
３．書名 アジアにおける経済関係の緊密化と国際分業	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考